

音楽と物語

私がピアノを習い始めたのは5歳の5月5日から。現在では「こどもの日」であるが、昔は「菖蒲の節句」とか「端午の節句」と言われて、その日は湯舟に緑鮮やかで香りもよい菖蒲をいれてお風呂に入ったのが懐かしい思い出である。邪気を祓うとされ、5月5日は男の子の日とされていた。

ピアノの手ほどきをしてくれたのは父。チェリストであったが「嫩葉ピアノ教室」というのを開いて自宅でピアノやソルフェージュ、チェロも教えていた。子供が大好きな人であったから、教えるのには熱が入っていたし、子供達にも好かれていた。

私を教えるのには曲の情緒に合わせて即興で物語を作りながらレッスンを進めてくれたらしい。「森の中は暗くて梟の鳴き声が聴こえてくるのでした」と語ると不安で泣きそうになり、「あ、でも森の奥の家に灯りが灯ったようです」と情景が変わると私の顔に輝きが戻ってくる。そんなように物語の世界に没入してしまう子供で、母は「お父さんがまた泉を笑わせたり泣かせたりして喜んでいる」と言っていたようだ。私は4人兄弟の長男だが、すぐ下の妹などはリアリストで「お父さんの話はみんな作り話よ」というから、父の物語で音楽を楽しんだのは結局私だけだった。

「音楽と物語の世界」というシリーズを始めたのは、60歳を過ぎてからである。映画や演劇で岸田今日子の芸風に心が捉われており「絶対に岸田さんと一緒にやりたい」と思った。サティの「スポーツと気晴らし」やノルドグレンの小泉八雲の「怪談」、プーランクの「像のババル」やラヴェルの「夜のガスパール」、シベリウスの「フロレスタン」その他、数えきれないくらいの作品を全国各地で共演さ

せていただいた。岸田さんとはお互いが分かり合っていて、新しい生命力に溢れたものを掴み取っていく、今思えば不思議なことなのだけれど、何も言わないのに新しい世界が開けていくのだった。彼女の幼馴染みである谷川俊太郎の詩とエストニアの作曲家シサスクの音楽を合わせてCDにしたのも幸せな思い出である。文学と音楽が交錯し、胸の奥底まで響く新しい世界を生み出してゆく。

岸田今日子さんが亡くなってしばらくは誰とも「音楽と物語」で共演することは考えられなかったが、吉松隆が宮沢賢治の詩に基づいて書いた「KENJI」を書いてくれ、再び音楽と文学が融合する世界への夢が開いた。草笛光子と一緒に「KENJI」を演奏して全国をまわった。

「九十歳。何がめでたい」という映画を撮り終えた草笛さんは91歳になり、私は現在88歳であり、女優の元田牧子と共に三代目の「音楽と物語」を始めたところである。演目はノルドグレンの小泉八雲の「怪談」による3つのバラード、そして、この10年間、毎年作品を委嘱しているアルゼンチンの作曲家エスカンデのオスカー・ワイルドの原作による「ナイチンゲールと薔薇の花」、ボードレールほか3人の詩人による「魔女の夜宴」(ゴヤを描く)は、2024年に完成したばかりの新曲。音楽と朗読が互いに呼びかわし生み出す世界を楽しんでいただきたい。

館野 泉

館野 泉 Izumi Tateno (ピアノ, Piano)

2025年に数え年90歳となるクラシック界のレジェンド、真の巨匠。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ不動の地位を築く。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。館野泉の左手のために10ヶ国の作曲家により130をこえる作品が献呈される。

元田牧子 Makiko Motoda (朗読, Declamation)



東京都出身、武蔵野音楽大学卒業。オリオンズベルト所属。歌の中のドラマ性に興味を持ち20代で演劇の世界へ。舞台、映像作品等ジャンルを問わず個性豊かな役で活躍。近年の主な出演作に、舞台『雨』(こまつ座)『時代劇PRINCESS TOYOTOMI』、映画『老後の資金がありません!』『九十歳。何がめでたい』などがある。

次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さいませ。

①やむを得ない事情により、出演者・曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全指定席です。指定の座席にてご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑨他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場頂く場合がございます。

奇跡のピアニスト 館野 泉



2022年にフィンランドで発売された館野泉の評伝。待望の日本語訳が2024年6月発売。幼少期から近年に至るまでの数々のエピソードに加え、館野泉と親交のある人物へのインタビューも収録。日本語版は館野泉氏本人による監修のもと、貴重な写真も追加掲載される。

サリ・ラウティオ 著
五十嵐 淳 訳
館野 泉 監修

ISBN 978-4-910731-02-5
定価:3,300円(税込)
発行:みずいろブックス 発売:株式会社静風社